

経済社会学会 編

経済社会学の周辺

経済社会学会年報・Ⅲ

新 評 論

目 次

I	左右田学説とマルクス価値理論との出会い……………	渡植彦太郎……………	七
II	アルフレット・シュニッツのウェーバー批判とその可能性……………	石井 秀夫……………	四
一	シュニッツの構想……………		四
二	シュニッツの「意味」定義……………		五
三	シュニッツの他我認識論……………		五
四	「意味」に関するシュニッツの矛盾……………		六
五	シュニッツに対する諸批判……………		六
六	ウェーバーの「意味解釈」……………		六
七	結 び……………		六
III	「都市の経済社会学」と都市社会学……………	吉原 直樹……………	三
一	「都市の経済社会学」的立場……………		三
二	都市社会学の危機……………		三
三	社会・生活構造論と「都市社会学の再生」……………		三
四	「都市の経済社会学」の発展のために……………		三

第一三回大会研究報告

▲自由論題▼

I 家計活動における贈与カテゴリー	春日 淳一	一〇五
——雇用局面への適用——		
一 序		一〇五
二 活動類型としての贈与カテゴリー		一〇五
三 雇用局面にみる贈与成分		一〇六
II 地域分析のための一序論的考察	吉原 直樹	一〇三
一 地域の今日的意味		一〇三
二 「地域」論の二つの系譜		一〇四
三 A主体としての地域Vを求めて		一〇六
III アンドレ・マルシャルの経済構造論について	柿内 正徳	一一一
一 はじめに		一一一
二 「意識化」概念と期間区分		一一二
三 構造の弾力性と構造変動		一一四
四 マルシャル構造論の特性とヨーロッパ統合論		一一六
IV ケインズとハイエク	古賀勝次郎	一一九
——ハイエクのケインズ体系批判——		
一 はじめに		一一九
二 ケインズとハイエクの思想上の基本的相違		一二〇
三 ケインズとハイエクの方法論上の相違		一二三
四 ケインズとハイエクの経済学における理論と政策の相違		一二三
五 ハイエクの経済および政治制度の改革案		一二四
六 むすび		一二五
V ハンガリーの経済改革	家本 博一	一二七
一 はじめに		一二七
二 六八年経済改革の諸結果		一二六
三 現段階における課題と対応		一二三
四 おわりに		一二四
VI 経済体制と「新しい社会主義」	佐藤 良一	一二七
▲共通論題▼		
I 福祉におけるにおける経済性と公共性	橋本 厚生	一三〇
II 価値判断、政府の倫理的態度および政治経済均衡	毛島 達雄	一三三
一 議論の趣旨		一三三
二 政治経済の構造と均衡		一三五
三 政治経済でのコージェネレーションの問題		一三五
四 消費者主権に基づくバレット効率性の限界		一三六
III 経済と政治の混合体制	青沼 吉松	一三九
一 経済的自由主義と政治的民主主義		一三九
二 政治の経済への介入		一四一

編集委員 (アイウエオ順)

- 委員代表 早瀬 利雄 (帝京大学)
青沼 吉松 (慶応大学)
板垣 与一 (亜細亜大学)
内海 洋一 (大阪大学)
北野熊喜男 (神戸学院大学)
酒井正三郎 (元, 南山大学)
富永 健一 (東京大学)
難波田春夫 (早稲田大学)
向井 利昌 (神戸大学)
吉田 昇三 (近畿大学)

経済社会学の周辺

(換印廃止)

1980年1月25日 初版第1刷発行

編集代表者 早瀬 利雄

発行者 二瓶 一郎

発行所 株式会社 新 評 論

〒150 東京都新宿区西早稲田3-16-23 電話 東京(202)7391番
振替 東京 6-113487番

落丁・乱丁本はお取替えします

印刷 白 陽 舎
製本 福田製本所

© 早瀬利雄 1980年

3033-330150-3177

Printed in Japan

三 官僚制との対決
▶特別講演要旨▶

パーソンズのA・G・I・L図式の一展開	酒井正三郎	一七二
一 パーソンズのA・G・I・L図式の問題点		一七二
二 グルードによるその改訂作業		一七三
三 グルードの展開とその評価		一七七
学会記事―第一三回大会記録		一八二